

ISSN 2759-6958

2023年度 北九州市平和のまちミュージアム年報



目次

はじめに	館長 重信幸彦	1
第一部 論考報告		
「八月の蹉跎 The Collapse of August in 1945～防空美談と「銃後」の変容をめぐる覚書と新聞資料紹介～その1」	館長 重信幸彦	2
第二部 事業概要		
I 施設概要及び沿革		
1 設立理念		29
2 開館の背景		29
3 施設概要		29
4 沿革		30
II 開館1周年記念事業		31
III 展示事業		
1 常設展示		31
(1) 概要		
(2) 各展示ゾーン		
2 企画展示		32
(1) 開館1周年記念企画展「B-29 がやってきた～北九州初空襲～」		
(2) 「<灰色>の日常－戦争を支えた人びとの暮らし－」		
(3) 「われら少国民～戦時下の子どもたち～」		
(4) 「あなたに語り継ぐ、北九州の思い出－令和5年度収蔵品展－」		
IV 第7回日本展示学会賞受賞		34
V 資料収集・保存事業		35
VI 映像資料		37
VII 教育普及事業		
1 平和のまちスタディツアー		37
2 出前授業		39
3 夏期講演会		39
4 長崎市との交流事業		40
(1) 青少年ピースフォーラム派遣事業		
(2) 長崎市平和派遣事業		
(3) 長崎～小倉 次世代交流平和推進事業		
5 広島市との交流事業(中・高校生ピースクラブ×北九州市学生による交流会)		43
6 戦跡ツアー		44

7 連携事業	44
(1) 北九州市立大学学芸員課程への協力	
(2) 大学の講義・演習による利用への対応	
(3) 北九州市立市民センターとの連携講座	
(4) 小倉城庭園との連携講座	
(5) 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典サテライト会場設営	
(6) リアル桃太郎電鉄～週末のKITAKYU バトル！！～(北九州モノレール編)	
8 講演	46
(1) 出前講演	
(2) 北九州市民カレッジ	
(3) 紙芝居「忘れない嘉代子桜・親子桜」完成披露 講評	
(4) 第11回平和首長会議国内加盟都市会議総会(会議Ⅰ)における取組事例	
(5) 令和5年度 八幡西区家庭教育学級人権講演会	
(6) くまもと戦争と平和のミュージアム設立推進特別講演会	
9 映像制作	49
(1) 館内案内動画	
(2) DVDビデオ「嘉代子桜」	
(3) DVDビデオ「北九州 ～戦争の記憶～2 私たちの約束」	
Ⅷ 広報	
1 ホームページ・SNS関係	50
(1) ホームページの運用	
(2) LINE・ツイッター(現 X)の活用	
(3) 学芸員日記	
(4) Wi-Fi の提供	
2 西日本新聞北九州版への連載	50
Ⅸ 組織	
1 管理運営(事務局)	51
2 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会	51
(1) 概要	
(2) 運営懇話会開催状況(第2回運営懇話会)	
第三部 参考資料	
1 2023年度統計データ	55
2 2023年度決算額	55
3 関係条例・規則	55

はじめに

館長 重信幸彦

本年報は、北九州市平和のまちミュージアム(以下「当館」という)の、2023年度の事業の記録です。公表が、だいぶ遅れてしまったことを、お詫び申し上げます。

開館二年目の2023年度における、大きな出来事は、6月に当館の常設展示が日本展示学会の「日本展示学会賞」に選ばれたことです。同学会は、人文系から自然史、動植物などあらゆる分野の博物館展示に関する学術研究団体です。当館の常設展示のテーマ設定や構成、映像音響機器の使用が優れており、「単に戦争被害を記憶する施設にとどまらない奥行き」ある展示であると評価していただきました。

北九州という地域の近現代のなかに戦争の時代を埋め込んで語る地域史のミュージアムとして、この受賞は力強い後押しであると、素直に喜んでいきます。戦争は、人間が生み出す巨大な負のプロジェクトであり、そのすべてを語りつくすことは、できません。もちろん、あれが触れられていない・・・、これが不十分だ・・・といったご指摘をいただくことも事実です。しかし私たちは、敢えて地域史のミュージアムとして、この戦争の経験を「日本」という大きな主語を通してではなく、地域の暮らしの等身大の歴史から描き出していくことを選択しました。それでも、そこにはまだまだ付け加え、充実させていきたいことも少なくなく、今後、企画展などを通して、より厚みを加えていく所存です。

そして、改めて、ミュージアムとしていかに多くのかたに関心を持っていただくかを考えさせられました。目下、北九州市内の小学校六年生のほとんどが、ミュージアムに来て学んでいます。日々その対応に追われているのですが、一方で、もっと広く生徒たち以外の市民の皆様、さらには市外、県外のかたにも、このミュージアムを知っていただき、足を運んでいただかねば、私たちの存在意義がなくなってしまうのではないかと危機感を抱いています。戦争とは何か、平和がいかに大切か、重要なことをうたえているのだから、学びたい人は来て下さるだろうと、ただ座して待つのではなく、より多くの方に興味と関心を持っていただけるよう、積極的に発信していかねばなりません。

それまで知らなかったことを知る、刺激を受けて知っているつもりだったことを改めて考える、来館者の知ることへの欲求に働きかけることができるよう、企画展や講演等のイベントを、いっそう工夫して作り上げていきたいと思えます。

展示学会賞をいただいた常設展示を資源として、ますます北九州市にとってなくてはならないと、市民の皆さまに思っていただけの施設に成長させていこうと、スタッフ一同、決意を新たにした一年でした。